テクノエイド（中級）研修会

優秀賞

ベッドコントローラーを使用した離床

富士見高原医療福祉センター
老人保健施設　みづうみ
杉山　一江

施設概要

- 平成24年4月開所

- 入所定員　　:2階　40床
　　3階　39床　　※各2ユニット　全室個室

- 自職場　　:2階　リハビリ強化型ユニット
- ユニット職員:介護福祉士　9名　看護師　1名

事例概要と課題

ベッドからの起き上がり、車いす移乗は全介助だが、つかまり立ちは可能。

- 職員が体に触れることに抵抗がある。
- 筋緊張による体の突っ張りにより、起き上がり時の介助量が大きい。
- 車椅子移乗の際、手すりなど掴んで離さない状況があり、バランスを崩すなど危険がある。
- 移動の際、興奮・混乱状態となり、大きな声が出る。
- 移動介助には最低2名で対応。

課題に対する対策

つかまり立ちは可能でることから、ご自身の力で起き上がり、移乗の動作ができれば、抵抗が起きないのではないか？

① ベッド上で右側臥位になってもらう。
② コントローラーを使用しながら上体を起こす。
③ ご自分で端坐位になってもらう。
④ ベッド横に車椅子を設置。
⑤ ご自分で車椅子に乗車してもらう。

対策実施後の結果

- 職員が身体に触れない事で、介助される恐怖心や拒否がなくなり、声掛けの指示も入りやすくなった。
- 利用者が介助されることに対し、身構えることや、全身の緊張がなくなり、身体の突っ張りもみられず、移乗時の痛みの訴えも聞かれなくなった。
- 利用者、介助者ともに安心して安全な移乗ができるようになった。
- 職員は、コントローラーの操作と見守りのみで良いため、１人で対応可能となり、介助量が大幅に減った。
- 利用者のタイミングに合わせる「待つ介護」というケアに向き合うことができた。

テクノエイド（中級）研修会

優良賞

床走行リフト活用による介護者、利用者の身体的負担の軽減

下伊那厚生病院
デイケアなごみ
熊谷恵美

施設概要

- 利用者：　平均介護度2、平均年齢（男性）82.2歳、（女性）84.3歳
- 送迎範囲：1市2町2村、送迎車7台、平均所要時間約1時間30分
- サービス提供形態：１日（介護）、午前半日（介護）、午後半日（支援）
- 加算：通所リハマネジメント加算、中重度ケア体制加算
  科学的介護推進体制加算、口腔機能向上加算
  口腔栄養スクリーニング加算
- 職員体制：看護師3名、介護福祉士11名、助手4名MSW1名
  （兼任：PT4名・栄養士１名・歯科衛生士１名）

事例概要と課題

体幹と四肢の筋力低下があり、移乗は全介助。
電動車椅子を使用しており、スライディングボードは使用できない。

- 移乗は、2人で持ち上げ介助を行っており、スタッフの負担も大きい。
- ズボンを持って介助しており、ズボンの圧迫による痛みや不快な思いをさせている。
- リフトに関しては、3割のスタッフしか使用方法がわからない。
- 移動や、車椅子上で姿勢を直す際、皮膚摩擦が発生している。

課題に対する対策

安全性、利用者・スタッフへの負担軽減を考慮すると、リフトを使った移乗が妥当と判断。

1. リフトをスタッフ全員が活用できるようにする。
2. リフト移乗をケアプランに追加し、手技を統一。
3. ベッド上や車椅子上での摩擦をなくすため、プッシュアップの訓練をリハビリメニューに追加。

対策実施後の結果

- 手順書を活用し、2～3人のグループでリフトの使い方学習会を実施、 使用方法をマスターチェック表で自己確認し、不安な部分は指導者に再確認することで、全スタッフがリフトを不安なく使用できるようになった。
- 本人からは「慣れると擦れることも少ないし、ズボンの圧迫もなくて、リフトの方がいいな」という言葉があった。
- スタッフからは「移乗した後の腰の張りがなくなった、ズボンを持たないことで滑って落としてしまう危険や柵などにぶつける心配がなくなった」との意見があった。
- スリングシートを外す時や姿勢を整える際、自分でプッシュアップしてもらい、摩擦軽減を図ることができた。